

2014 あがまち 風景賞

この賞は、桐生市の個性あるまち風景を形成している建造物や空間等のうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰し、まちなみの保存と活用、ならびに市民の都市風景に対する意識の高揚に寄与することを旨とする。ファッションタウン桐生推進協議会まちづくり委員会が主管。14回目となる今年も5件の案件が選出された。



清風園

所在地／桐生市梅田町5 代表者／藤生章三

梅田の里にひっそりと佇む割烹旅館「清風園」。昭和34年(1960)創業。桐生川の清らかな瀬音、木々の囁き、可憐に咲く野の花が四季それぞれの情趣で静かに迎えてくれる。隠れ家的な一軒家で、季節毎に旬の地元食材を吟味した本格的な会席料理と、桐生川が望めるひのきのお風呂が心の洗濯をしてくれる。



田沢下組から栗生神社にいたる風景

所在地／桐生市黒保根町上田沢 代表者／小林善紀

黒保根町上田沢の下組地区は、国道122号線沿いの水沼交差点から県道257号根利八木原大間々線に入り、田沢川に架かる間々下橋周辺に位置する小集落。そこを入り口にして栗生山に向かい3キロほど進んだ場所に建つのが上田沢地区の鎮守社「栗生神社」である。本殿は寛政2年(1790)に造営されたもので、関口文治郎の華麗な彫刻が施されている。



三角箱 (柴永ロジ)

所在地／桐生市川内町5 所有者／柴永綾子

川内町5丁目、名久木の山間にある風変りな山荘。「三角箱」の名前通り、立方体を対角線上に切り取った形。屋根と外壁は単一の杉板が張り巡らされている。装丁家・柴永文夫氏の別荘として昭和47年(1972)に宮脇檀(まゆみ)氏が設計した。別荘内部の巨大な壁には当時来日していたポーランドの画家、ガーベル・レホヴィッチの絵が描かれている。



丹羽家住宅 (旧丹羽長)

所在地／桐生市広沢町2 所有者／丹羽佳子

新桐生駅の踏切をすぎて間もなく、右手に卵色の長い塀と大きな松が見える。通称「丹羽長前」、丹羽長とは丹羽長右衛門の略称である。明治期、長右衛門は丹羽織物株式会社を創業。敷地2千坪にノコギリ屋根工場が連なる大工場であったが、第二次大戦時、軍需工場として接収され、農地解放で広大な土地も失い、現在の屋敷が残った。



華山と歩く桐生と周辺の旅

所在地／桐生市と周辺 代表者／岡田幸夫(華山と歩く会代表)

江戸時代後期の武士であり、洋学者、思想家、そして画家としても傑出した才能を示した渡辺華山。二歳年下の妹・茂登が桐生の買継商・三代目岩本茂兵衛に嫁いだ縁で何度か桐生を訪れている。天保2年(1831)秋に滞在した際は、美和神社や雷電山(水道山公園)を散策、小倉峠、富士山山頂から市街を眺望し、『毛武遊記(もうぶゆうぎ)』という紀行文を残している。